



当日のヤリイカ仕掛け

●Tackle Guide
仕掛けはシングルカンナ 11センチ ブラヅノ 5~8本のブランコ仕掛け。中オモリはたるませて底にいるヤリイカの層に多くのツノを送り込むことができるが、混雑時はオマツリの原因にもなるので外すように。竿はオモリ 150号を指定する船も多いので全長 150~175センチの短竿ほうが持ち疲れを軽減してくれる。

▼今後も安定して釣れ続くことに期待



▼乗るのは底中心



それは防ぐにはテンションをかけたまま一定速度で取り込むこと。ナギの場合はイカ

り上げたのは3投目のこと。海底でたたくように穂先を揺さぶった後にひと呼吸置いてからジワジワと誘い上げるとズドンときて胴長30センチのヤリイカを取り込んだ。しかしその後は潮が速くなってしまう、投

た乗りが続いていたが、9時半を回ったところ、いい群れが見つかったのか、船内あちらこちらで水鉄砲を上げてヤリイカが取り込まれ始めた。おかげで順調に写真

の後はポツリポツリとした乗りが続いていたが、9時半を回ったところ、いい群れが見つかったのか、船内あちらこちらで水鉄砲を上げてヤリイカが取り込まれ始めた。おかげで順調に写真

ですぐ投入できるように素早く準備をしておく必要がある。
バラシも連発
右舷トモの村さんが「乗らないな」と嘆いていたので魚探を覗き込むと、イカの反応は底ベツタリに出ている。「底に反応がありますから巻き落としてみては」とアドバイスすると、作戦がうまくハマったらしく「乗った乗った」と巻き上げを開始。

取り込みの写真を撮ろうと構えていると海面でバラソル級が逃げていく姿が見え、仕掛けをたぐるとその下のツノのカンナには千切れた触腕。さらに下のツノには2杯のヤリイカが乗っており、「あゝ4杯いたのに」と落胆する村さんだった。巻き上げ途中でイカがバレるときのプツとした感触もガツカリするが、海面バラシはイカが見えているだけにダメージがより大きい。それを防ぐにはテンションをかけたまま一定速度で取り込むこと。ナギの場合はイカ

に海水を吹かしてから取り込めば、重さで触腕が切れるリスクが軽減される。同時に巻き上げを開始した左舷トモの関さんはヤリイカとスルメのダブルだ。すると左舷ミヨシ側で「やられた」と悲鳴が上がった。行ってみると取り込んだ仕掛けに付いていたのは胴の部分がなく残った無残なヤリイカの姿。隣の小川さんも2杯掛かっていたのだが、こちらの1杯にも胴の部分に何かにかじり取られた形跡があった。恐らくサメの仕業だろう。その後はポツリポツリとした乗りが続いていたが、9時半を回ったところ、いい群れが見つかったのか、船内あちらこちらで水鉄砲を上げてヤリイカが取り込まれ始めた。おかげで順調に写真

撮りも進んだことから私も10時半から釣りに参加。船長の合図とともに仕掛けを投入。着底直後が一番乗るチャンスなので糸フケを取って静かに聞き上げるとクイクイとお辞儀をする穂先。幸先よく1投目からヤリイカが乗ったらしくニンマリして巻き上げているとプツとテンションがなくなってしまう。なんと、今までまったく姿を現さなかったサバがよりによってこのタイミングで出現。私の両隣の人に掛かってしまった3人でオマツリ。仕掛けを回収すると墨の付いたツノが2本あった。次の流しでは「上げて」の合図に高速巻きしたのだが、仕掛けを投入器に収めていたと千切れた触腕が付いていた。たぶん巻き上げ合図の際に乗ったものと思われる。ようやく私がヤリイカを釣り上げたのは3投目のこと。海底でたたくように穂先を揺さぶった後にひと呼吸置いてからジワジワと誘い上げるとズドンときて胴長30センチのヤリイカを取り込んだ。しかしその後は潮が速くなってしまう、投



▲巻き上げ時の重量感も楽しい



▲今年のヤリイカは前半戦から良型が多い

7時少し前に14名を乗せて出船。ポイントの江ノ島沖に到着すると、潮回りを済ませた後に「水深は180メートル。タナは底中心です。どろぞろ」と栗飯原船長から開始の合図。それと同時にポンポンと投入器から一斉に仕掛けが投入された。ヤリイカは最初に落ちてきた仕掛けに乗る傾向があるこ

とから、いち早く仕掛けをヤリイカのいるエリアに送り込む必要がある。そのため皆さん竿を下向きにして道糸にかかる摩擦抵抗を減らす姿勢を取っている。全体が見渡せるミヨシの先端に陣取って撮影の準備をしていると、右舷ミヨシの増田さんが着底して糸フケを取った直後に穂先がクイクイと奥ゆかしい魚信をとらえた。「着乗りしたみたいですね」と言いつつ増田さんはグツと合わせを入れてリリーングを開始。するとクイクイと竿先を引き込む。抜き上げたのは胴長35センチのヤリイカのダブルだ。同時に右舷胴の間の安田さんと同級のヤリイカを取り込むと、左舷胴の間の仲居さん

入が遅れてしまった人は1回お休みとなり釣果も急降下。そして沖揚がりとなって釣果は胴長25~40センチのヤリイカが5~26杯だった。ヤリイカのトップシーズンはこのころなので、重量感ある多点掛けを狙って出かけてみてはいいかがだろう。

夏を代表するイカをスルメイカとするならば、冬を代表するイカはヤリイカではないだろうか。
ヤリイカの釣期は秋口から春にかけてとなっており、今シーズンは各エリアで順調な滑り出しとなった模様だ。
肉厚のパラソル級
11月26日、三浦半島葉山あぶずりの長三朗丸に出かけてきた。

長三朗丸のヤリイカの近況は、トップで40杯以上の好日も何日かあったが、おおむね20~30杯といったところ。サイズは胴長30センチが平均とよく、中には胴長40センチオーバーのパラソル級も交じっているのもとても楽しみ。しかし気になるのは仕掛けの種類だ。スタンダードなブラヅノ11センチのブランコ仕掛けか。大型ヤリイカやスルメイカにもアピールの高いブ

ラヅノ14センチのブランコ仕掛けか。はたまた直結仕掛けも必要なのか？
出船1時間前に船に向かうと、すでに人数分の席に投入器とオケがセットされており、テキパキと支度をしていた仲乗りの極さん。手の空いた頃合いを見計らって仕掛けについて聞いてみた。「スルメは交じる程度でサブもほとんど邪魔しないから11センチのブランコ仕掛けでいいですよ」とのことだった。7時少し前に14名を乗せて出船。ポイントの江ノ島沖に到着すると、潮回りを済ませた後に「水深は180メートル。タナは底中心です。どろぞろ」と栗飯原船長から開始の合図。それと同時にポンポンと投入器から一斉に仕掛けが投入された。ヤリイカは最初に落ちてきた仕掛けに乗る傾向があるこ

とから、いち早く仕掛けをヤリイカのいるエリアに送り込む必要がある。そのため皆さん竿を下向きにして道糸にかかる摩擦抵抗を減らす姿勢を取っている。全体が見渡せるミヨシの先端に陣取って撮影の準備をしていると、右舷ミヨシの増田さんが着底して糸フケを取った直後に穂先がクイクイと奥ゆかしい魚信をとらえた。「着乗りしたみたいですね」と言いつつ増田さんはグツと合わせを入れてリリーングを開始。するとクイクイと竿先を引き込む。抜き上げたのは胴長35センチのヤリイカのダブルだ。同時に右舷胴の間の安田さんと同級のヤリイカを取り込むと、左舷胴の間の仲居さん

知得! Tips and Tricks
ヤリイカ釣りの三種の神器

カンナに付いた墨を取ってイカの乗りをよくする歯ブラシ。飲み込まれたツノを素早く外せるサバ外し。死後硬直を防ぎ新鮮さを保つためのイカ絞め器。この道具を私はヤリイカ三種の神器と呼んでいるが、加えてタイルカーペットは取り込みの際にツノをさばくのに便利なので用意しておく役に立つ。

▲ちょっとした小物があると釣りがより快適になる

●船宿 information
三浦半島葉山あぶずり
長三朗丸
☎090・5344・1958
(詳細は巻末の情報欄参照)

▲料金=ヤリイカ乗合一人1万1000円
▲備考=出船7時、沖揚がり14時ごろ。無料駐車場あり。ほかカワハギへも出船

栗飯原 有詞船長